

## 光の演色性

緑が緑として見えるためには一定の明るさが必要です。太陽の明るさは、色温度で6500K（ケルビン）あります。JIS規格では、その数値を決めております。印刷業界では5500Kを基準にしております。私が、この事を知ったのは現役時代に塗装メーカーの営業をしていた方が、車の塗装をして、ユーザーに苦情が出ないように光源を持って行き、その明るさで確認してもらおうと言う話を聞き、また、標準カードがあるということで、通販で光の演色性の検査カードを入手しました。そのカードは明るさが標準値であれば色が左右一致します。従って、適正な色温度ということになります。美術館へ行き、そのカードを出し確認しましたが、ほとんど考慮されておられません。照明の点で今後の課題と言えるでしょう。つまり、個々に描く環境が異なれば、明るさが違い、その作品の展示場所もまちまちならば、もはや緑が緑として見る事が出来ません。例えば、モネの作品は自然光を取り入れた場所に展示し、モナリザの作品は室内の明るさに合わせ、ゴヤの作品は暗い洞窟の中に展示する必要があります。しかし、一般の作品は、そんな事は考慮されず、一律の照明にしておりますから、画壇は規格統一すべきではないでしょうか。